

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2000-598844
起案日	平成15年 9月11日
特許庁審査官	竹中 靖典 3010 2J00
特許出願人代理人	石田 敬 (外 3名) 様
適用条文	第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

理 由

理由1

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

(1) 請求項1乃至4に対して、引用文献1, 2

引用文献1には、間にスペーサを有する一対の平らな板を具備して電気泳動スラブゲルを鋳物成形するためのモールドとして作用する、板及びスペーサアセンブリを共に固定した装置が記載されている。(【0015】-【0017】参照)

そして、引用文献2には、板及びスペーサアセンブリを固定する手段として、弾性的に曲げ可能である壁及びカム手段を用いて、板とスペーサアセンブリを固定するクランプ位置と、板及びスペーサアセンブリの挿入及び取り出しを可能にする開位置の間で手動で回転可能であるカム手段が記載されている。(図1参照)

ここで、引用文献1, 2は共に電気泳動装置に関する発明であるので、引用文献1に記載された装置の板及びスペーサアセンブリを固定する手段として、引用文献2に記載された手段を適宜設計変更して採用し、請求項1乃至4に係る構成とすることは当業者が容易に想到し得るものと認められる。

(2) 請求項5乃至8に対して、引用文献1, 3

引用文献1には、底部開口を有して長方形のスラブゲル容器内のゲルを鋳

物成形するために垂直位置に容器を設置するための鋳物成形スタンドにおいて、底部開口をカバーする寸法の床と、床から上方に伸張する垂直な壁を有する鋳物成形スタンドが記載されている。(図2参照)

そして、ゲル鋳物形成に際して、容器の底部をガスケットに圧着してシールすることは引用文献2により公知であるので(第1カラム第21行参照)、引用文献1に記載された鋳物成型スタンドにおいて、係る構成を採用すべくスタンドの床部にガスケットを設け、これに容器の底部を圧着させるようにすることは、当業者が容易に想到し得るものと認められる。その際、上記圧着の手段として、クランプ位置と開位置との間で回転可能なクランプ部材、及び、該クランプ部材にばね力を作用させ、該クランプ部材をクランプ位置に向かって付勢する部材からなる周知の圧着手段(特開平5-237125号公報/図3, 特開平8-257984号公報/【0032】【0033】, 特開平11-28572号公報/図3, 特開平10-296072号公報/図2等参照)を適宜設計変更して採用し、請求項5乃至8に係る構成とすることは、当業者が適宜実施し得る事項に過ぎないものと認められる。

理由2

この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1乃至8には、スラブゲル作製時に板とスペーサから成る部材を保持することに関する発明が記載されている。一方、請求項9, 10には、スラブゲル作製時に用いる挿入に関する発明が記載されている。

両者は発明の新規な主要部が一致するものとは認められず、共通の新規な課題を解決するものとも認められない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1乃至8以外の請求項に係る発明については同法第37条以外の要件についての審査を行っていない。

引用文献等一覧

1. 特開平8-233779号公報
2. 特開平10-62389号公報
3. 米国特許第5827418号明細書

・調査した分野 I P C 第 7 版 G 0 1 N 2 7 / 4 4 7

・先行技術文献

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第1部材料分析 谷垣 圭二

TEL. 03(3581)1101 内線3252

FAX. 03(3501)0604